

目的

関節リウマチは免疫の異常によって関節で慢性的に炎症が起こり、関節が徐々に破壊される自己免疫疾患です。2003年から炎症の伝達物質であるサイトカインや免疫細胞を阻害する生物学的製剤が関節リウマチに対して保険適応となり、大きな治療効果をあげています。一方で近年、生活習慣病が増加しており、関節リウマチの患者さんの中にも糖尿病を合併している方や、リウマチの治療薬の影響で血糖値が悪化している方がおられます。関節リウマチと糖尿病はどちらも血管の障害を招き、心筋梗塞や脳卒中などの心血管疾患の危険を高めるとされています。そのため、関節リウマチと糖尿病の両方とも改善することが、患者さんの生命予後改善につながると考えられます。本研究では関節リウマチと糖尿病や境界型糖尿病を合併した患者さんにおいて、生物学的製剤を投与した前後の経過をカルテの記録から調べて統計学的に解析することによって、生物学的製剤が耐糖能異常に与える影響を検討します。